

ファンがつくる 金沢競馬をもっと楽しむ情報誌

# 遊馬<sup>plus</sup>

協 力：金沢ホースマンクラブ  
協 賛：金沢競馬振興協議会  
発 行者：遊駿プラス編集部

## 無料

ご自由にお持ちください

[www.kanazawakeiba.com](http://www.kanazawakeiba.com)



スポットライトは

私のもの

Ask Me Anything

吉原騎手インタビュー

新人さん、いらっしやう！

加藤翔馬騎手インタビュー

2023年5月

vol. 51

※ご意見、ご感想をお寄せください  
宛先 E-Mail: [yushun.plus@gmail.com](mailto:yushun.plus@gmail.com)  
<http://sites.google.com/site/yushunplus/>



### 加藤翔馬騎手 インタビュー

今年、実に二十二年ぶりとなる地元石川県出身の新人騎手が誕生した。

加藤翔馬騎手。父は金沢の元騎手で現調教師の加藤和義調教師。騎手になるべくしてなった、と思われるそうだが実はそうでないと言う。

「競馬場には余り来ていなかったですね。ほとんど来ていない。本当に小さい時の記憶しかありません」



自厩舎の「ナゴミちゃん」と

加藤騎手の記憶に厩舎や馬は余りないらしく、中学まではサッカーに打ち込むごく普通の少年だった。

「運動は可もなく不可もなく。勉強

も普通だった」

競馬とは近そうで遠い、そんな普通の少年が騎手と言う勝負の世界で十分に渡り合えるヒントもこの学生時代にあった。

「(学生時代の)得意教科は国語。でも、最初は苦手だったけど夏休みに塾とかで八時間勉強していたら最後は好きになった」

苦手教科を得意教科へと変えるのは並大抵の事ではないのは誰もが経験をした事であろう。

サッカーでの身体能力、頭脳の柔軟性、根性と騎手として必要な要素は秘めていたと言えそう。

そんな加藤少年が父の引退レースや引退式(コース上で胸上げされるわ、騎手同士がパイ投げ合うわのフリーダムな引退式だったが)を見て一念発起して騎手への道を歩みだし、ついにデビューを果たす。デビューしてからの生活はやはり今までは違うようで、

「最初は生活時間が(これまでと)違って。休みの日は何もしない。昔は漫画やゲームをやっていたけど」

朝早くから活動し、調教など体力を使うハードな仕事をこなし、休日は回復に専念をしているそう。



加藤調教師と

Photo by ベ

現在、初めての一人暮らしで食事も自力でこなしているとの事。

「そういう加藤騎手を癒してくれる好みのタイプを聞くと、

「清楚な人。芸能人に例えるなら今田美桜や浜辺美波」

と答えるも、現在恋人は

「今は募集していません」

との事。今はまだまだ競馬に専念と言う所か。

騎手としてデビューして感じるのやはり学校で学んだ事との違いだった。

「スピード感とか違って今までの学校の競走とは違う。でも怖さはない」

デビューして一か月。学校との違いを感じながらも上げた二勝(インデビュー時)。もちろんこの数字には、

「納得いつていない。ほほ何かしら自分のミスでこぼしたと言うのが……」



Photo by miwa

学校では学べない事を実戦で学び、それを糧として未来へと繋いでいく。そして、自厩舎にはトップジョッキーの吉原寛人騎手も所属している。

「先輩方のレースの事は勉強になる」

食欲に先輩の技量を見て、感じて、盗んで一步一步進歩をしているようだ。

そんな加藤騎手が着ている勝負服は金沢では見ないオレンジ色を基調

とした物。他のインタビューでは「守護色」と言っていたが、

「元々好きな色だったんですけど、ラッキーカラーみたいな感じですよ。ネットで調べられて自分にとってはいい色で、ちょっとでも願掛けを」

いかにも今時な願掛けと言えそうだが、加藤厩舎のイメージカラーが同じオレンジ色と言う事もあって守護色と言うよりも運命染みた物を感じる。

ちなみに自厩舎のリユウノラファールで上げた通算四勝目が初の七枠オレンジ帽での勝利となった。

サッカー少年の頃好きな選手は日本代表の長友佑友選手だと言う。

「あのスティックさと熱さに惹かれますね」

長友のハートに自厩舎の先輩吉原騎手のテクニクを得てファンやすべての人の期待に応える騎手へとなって欲しい。

「新人らしく元気で頑張りたいと思いますす!」

力強くそう言った加藤騎手。

いつか大舞台の表情台で「ブラボー!」と言われる日がきつと来るであろうと期待する。



### 吉原騎手インタビュー

金沢の重賞を二勝に加えて、笠松のオグリキャップ記念も勝利して今年も変わらない勝負強さを見せる吉原寛人騎手。

そんな吉原騎手に距離の事や新人騎手、冬季遠征していた高知の事など聞いてみました。

#### 距離のこと

ハクサンアマゾネスが無類の強さを見せる二〇〇m、百万石賞が行われる二一〇〇m。僅か一〇〇mの差だが、それでも違いがあると言おう。

「二〇〇mは力がはっきり出やすいコース。多少の展開のアヤはあっても力はすんなり出る」

力が出やすい分、力のあるハクサンアマゾネスが強いのは金沢二〇〇〇mの走りやすさもありません。

では、一〇〇m伸びると。

「二一〇〇mは(直線が)長くなる分早く落ち着くから、スローになっ てしまっ」

紛れも少なく、すんなりと隊列が

決まってペースがスローになりがちになると言っ。

前々でレースを進めるハクサンアマゾネスにとってはやりやすそうだがそれは他の馬も一緒と言っことか。

「二〇〇〇mがちよっどいいね」

二〇〇〇mと言えば石川ダービー。吉原騎手にとってのベスト距離。今年はどうな走りを見せてくるのか、二一〇〇mの走りも含めて楽しみだ。



Photo by miwa

#### 翔馬騎手のこと

吉原騎手の所属する加藤和義厩舎に所属となった今年デビューの加藤翔馬騎手。

翔馬騎手は加藤調教師の息子とい

う事もあつて、

「小っちゃい頃からご飯と一緒に食べた事ある」

その繋がり長い。その翔馬騎手の騎乗をそばで見ていると、

「シルエットは似ている『あ、加藤さんや!』って。遺伝であるんやなあ」

和義調教師の騎手時代にはトップジョッキーとして鎬を削つて来た。

その影を息子の翔馬騎手にも見ている。もちろん、同じ厩舎と言っ事もあつて、アドバイスはよくして真面目に聞いていると言っ。

「ちょっと性格が良すぎるぐらいかな。もつと我を出してほしい」

そう言っ所はお父さんと真逆だね、と大きく笑う。しかし、名騎手だった父に近付くにはそう言っ所の変化も必要だと言っ事か。

「これから新人なんだろうんな課題から(経験を)吸収してどんどん上手くなって欲しいね」

翔馬騎手の事を話す吉原騎手の表情は終始穏やかだが、先輩騎手となると厳しさも見せる。

名手に囲まれた翔馬騎手の今後



Photo by haruka

あえず行く」

馬の気合乗りはもちろん、騎手の気合乗りも見極めないと一発逆転は厳しい。

「みんな行くから三、四コーナーで前から下がってくる馬、後ろから上がったくる馬で密集してくるから、出るに出来ない事もある」

展開や立ち回りが上手くいきそうな馬がまだ可能性がありそうだが、予想は困難なものには変わりない。

そんなレースが金沢でもあれば注目されるのでは、と思っが、

「金沢は常に一発逆転みたいなものだけだね」

と、吉原騎手は笑う。

そこに必要な物はアイデアだったり実行力だったり。今より一層の努力が必要か。

「金沢ももつと頑張れ」

金沢と違つた刺激を受けていた様子。高知と言っば成績不振や力不足の馬を集めた一発逆転ファイナルレースがお馴染みだが。

このどんぐりの背比べの様な競走を乗る立場から見て大切な事はと訊くと、

「ガッツ、気合。最後は気合。とり

日本全国様々な競馬場で騎乗する吉原騎手が地元金沢へ言つた一言。それはファンの想いと同意。

コロナ前の日常へ戻る今年、金沢はコロナ前以上の日常へ変わる時。

コロナ禍の枷が外れた吉原騎手の活躍が変わる金沢を引っ張つていく。



▼今年も強い、  
ハクサンアマゾネス

昨年も当然のように年度代表馬に選ばれたハクサンアマゾネス。六歳となる今年もやはり強かった。

年明け初戦は二年ぶりの一四〇〇m戦という事もあり、短距離が主戦場の元中央OP馬オヌシナニモノの二着。

しかし、本番は次だと言わんばかり

に次走金沢競馬移設五〇周年では復帰後好調のエムティアンジエを五馬身差圧勝。続く百万石賞トライアル利家盃は前走を好タイムで勝利し、アマゾネスとの力関係が目ざされたトランスナショナルを不良馬場の中七馬身差で一蹴。当レース三連覇と



ハクサンアマゾネス

Photo by miwa

共に地元での敵無しぶりを際立たせる結果になった。

次に狙うはジャングルスマイルが二〇一〇年から一二年にかけて達成した百万石賞三連覇。この大偉業達成の瞬間をファンは見ることになるのだろうか。

なお、鞍上の吉原寛人騎手が百万石賞を制覇すると所属する加藤和義調教師が騎手時代の二〇〇五年から七年にかけて記録した百万石賞三連覇に並ぶ。こちらの偉業も達成となるか。

▼今年も強い、  
ショウガタツプリ

昨年はそのインパクト十分な名前に走り無敗の七連勝を達成、まさにたつぷりの賞を得たショウガタツプリ。年明け初戦の準重賞若駒賞では単勝一・〇倍の圧倒的な人気に推されて三馬身差の快勝。

そして次戦はノトキリシマ賞。包囲網とも言えそうなマークも物とせず、高知からの転入二戦目の素質馬スカイピースに一馬身半差をつけて優勝。デビューからの連勝を九に伸ばした。

石川ダービーを制すると節目の十連勝となるが、無敗でダービーを制したのは二〇二〇年のハクサンアマゾネス以来で、二歳からの無敗での勝利となれば史上初となる（ハクサ



ショウガタツプリ

Photo by miwa

ンアマゾネスは三歳四月にデビューし、四戦四勝でダービーを制している。

▼挑戦者現る！  
北日本新聞杯

ショウガタツプリを止める馬は現れるか。注目された石川ダービートライアルの北日本新聞杯（一七〇〇m）。ゲートが開くと一番人気マリデンデュンが予想通りの後続を引き離しての逃げ。それを三番人気スカイピースと最低人気ウォーゲムが追いかける。

向こう正面入口でスカイピースが動いてウォーゲーム後退。さらに外から一気に二番人気ブノビスケットが進出。

二頭が先頭を行くマリデンデュンデュンを捕まえて最後の直線。すると直線を進むに連れてブノビス

ケットが抜け出し、序盤最後方でレースを進めていた四番人気ポストンコモンが猛然と追い込んで二着争いに加わる。

その争いを尻目にブノビスケットは六馬身をつけて先頭でゴール重



今年、金沢競馬場に本格的な肉料理のお店、「みつを食堂」がオープン。一般紙に取り上げられるなど、早くも話題となっている。

これまでは単なる「軽食堂街」だったところを今年から「うまいもん広場」と銘打つなど、金沢競馬場の飲食店の数の多さと種類の豊富さは他場に引けをとらない。それどころか他場に行く物足りなさを感じてしまふほどのレベルとも言える。

また、今回の「みつを食堂」のように、新しくオープンするお店があることも特筆される所。来場する人達を飽きさせることなく、これまでの老舗と共に、競馬以外のさらなる楽しみを生み出すことができている。

「グルメ」というジャンルは、全国各所でフェスやイベントが行われているように、集客の大きなコンテンツとなっている。また昨年のウマ娘コラボの際には、不二家食堂が作品中に登場した『にんじんハンバーグ』を再現してSNSで話題と

賞二勝目となった。ノブノビスケットはこれで石川ダービーの優先出走権を手にしてショウガタツプリの前に八着で敗れた金沢ヤングチャンピオンのリベンジに向かう。

なった事も記憶に新しいところだ。

そんな金沢競馬では、飲食店街の整備や様子をホームページでの紹介したり、情報をまとめた看板を設置するなどPRも積極的に行っているところである。が、ここはもうひと押しが欲しい所。

たとえば、期間を限定して共通食券での食歩きが可能なフェス的なイベントや、グルメ情報だけを取り上げた小冊子を発行するなど、小規模なグルメイベントや新たな形の情報発信を行ってみてはどうだろうか。なお「お前がやれ」という意見については、謹んで辞退させて頂こう。ここは公式がやってくれ、である。

これだけの飲食物を手軽に食べられる金沢競馬場。これを競馬のファンだけが知っているというのはもったいない。競馬ファンやそれ以外の人にも知ってもらって、実際に味わってほしい。

それが、原材料費の値上げが続く中リーズナブルな価格で提供してくれている飲食店の売上に繋がって、今後もますます「うまいもん広場」が繁盛すればと思っている。